

奨励賞 YUNONO さん（大阪府 小学6年）

脱炭素社会に向けて。SDGs（持続可能な開発目標）

私がこのテーマを知っていく中でまず最初に危惧したことは、『温暖化による野生動物の生態系への影響は？』ということでした。私は、地球上の全ての生き物が大好きです。とても尊いと思っています。人間の身勝手に絶滅してしまう生き物がいてはいけないと思っています。生き物全ては、絶妙なバランスで生態系を保っていると思います。もちろんそこに人間も含まれているはずで、生態系が崩れるということは、少なからず人間にも影響があるはずで、私達も生き物の命を頂いています。毎日お肉やお魚、お野菜を食べています。このまま地球温暖化が進めば、私達は近い将来、食べることが出来ない食べ物が出てくるかもしれません。

これから挙げる例はほんの一例に過ぎませんが、例えば今、ホッキョクグマやウミガメの現状は大変酷いものになっています。温暖化がこれまで以上に進むと、気温はもちろんのこと、海面温度も上昇します。すると、ホッキョクグマが過ごす海氷がない期間が伸びてしまったり、海氷自体が少なくなってきたりします。人間に置き換えて考えると、日々住める土地が減ってしまっているようなものです。アオウミガメは、卵から孵る赤ちゃんがオスカメスかは、なんと、生まれ落ちた海水温度によるのです。海水温度が高めの場所で産卵すると、メスが生まれるそうです。そうすると、近い将来、メスばかりが生まれるかもしれません。

今、私たち人間にできることを早急にしていかないと、こうして絶滅しなくていい動物たちが絶滅してしまい、私たちにも影響が出てくると思います。このCO₂排出量をとにかくちょっとでも減らしていくということは国を越えて、私たち人間に課せられた大きな課題であり、待ったなしの急務です。私たちがこれから目指していく社会とはどういう世界であるべきなのか？脱炭素社会を目指して、動植物たちを一種も絶滅させることなく、取りこぼすことなく、共存していける社会を世界が一丸となって、取り組むべきだと思います。

具体的な案として私が考えたのは、まずは知ること、が大切だと思ったので、小学校や中学校の義務教育の教科科目の中に、『環境』を取り入れるのはどうかな？ということでした。

算数や国語と同じように、環境教科は大切であると思います。その授業を通して、個人や学校単位でできることに取り組んでいくのはどうかなと思いました。海外、特に欧州では、子供たちや若い人たちも環境問題にとっても関心が高いそうです。SDGs達成度ランキングもトップ10は欧州が占めています。日本は18位と決して高いとは言えません。日本は他の国に劣らない様々な技術を持っている国だと思います。欧州の良いところに倣い、ゴミを減らし、自然エネルギーを増やし、リサイクルできるものをメインにしていく。こういったこともとても大切だと思います。

大事なことは、人間も環境の中の一部であるということです。人間だけが特別で何をして、身勝手なことをしても許されるのではありません。知恵や道具を使える私たち人間は他の生き物たちを脅かすのではなくその力を、守るため、共存のために使えるはずで、私はそう信じてます。